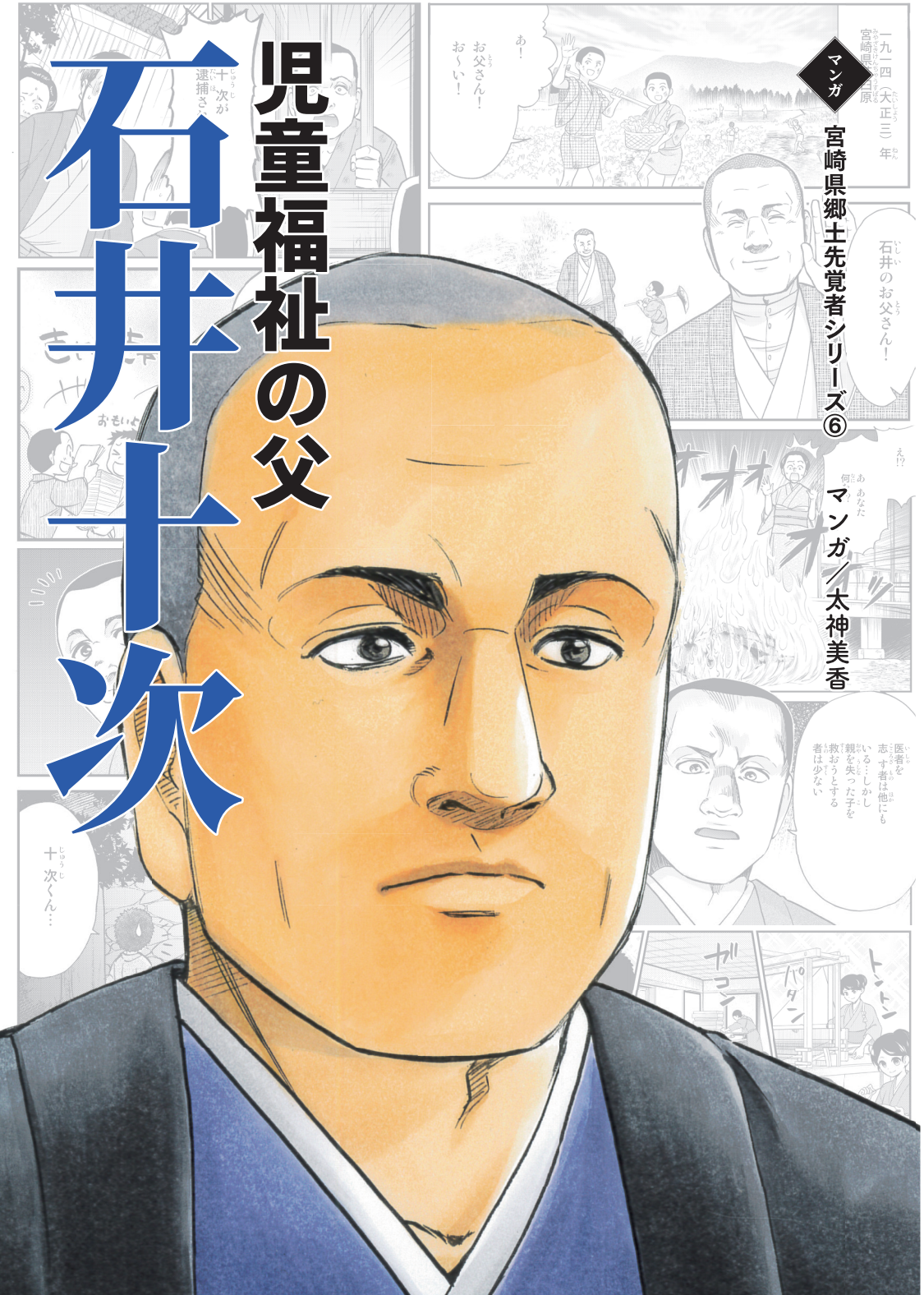


マンガ宮崎県郷土先覚者シリーズ⑥　**児童福祉の父 石井十次**

令和5年3月 発行

発　行／宮崎県
〒880-8501　宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号
宮崎県 総合政策部 みやざき文化振興課
TEL : 0985-26-7099　FAX : 0985-32-0111

協　力／児嶋草次郎（社会福祉法人石井記念友愛社 理事長）
石井十次記念館

マンガ／太神美香

制　作／㈱梓書院
〒812-0044　福岡県福岡市博多区千代3丁目2番1号
TEL : 092-643-7075　FAX : 092-643-7095

©2023 宮崎県　Miyazaki,prefecture　printed in Japan.

一八八七（明治二十）年
岡山県上阿知の診療所

…さきほどはありがとうございました

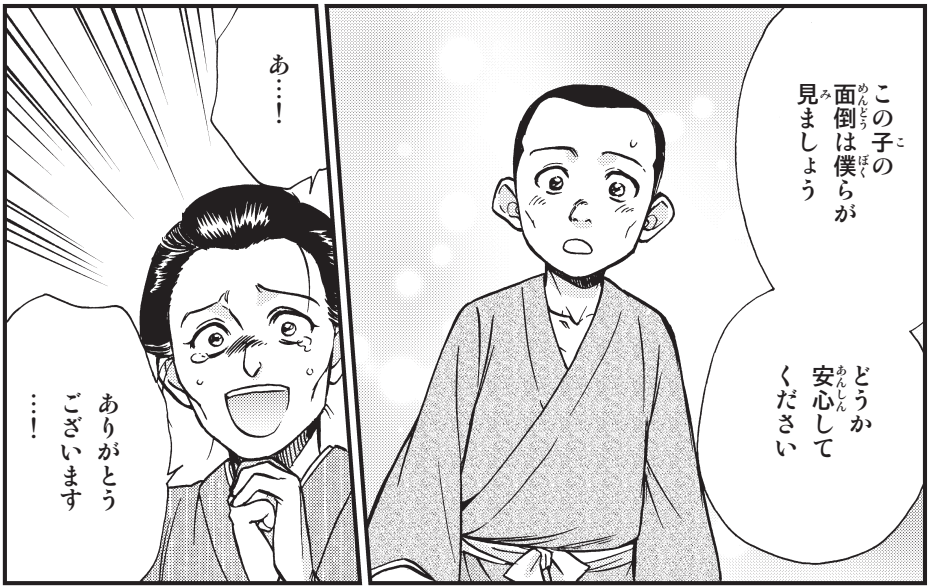
子どもたちが食事をいただいて…おかげで助かりました

私一人なら何とか暮らしていくこともできますが子ども二人を連れてとなると雇ってくださるところもなく…

どうか…兄の定一だけでもこちらでお世話になることはできませんか…!?

…顔をあげてください お母さん

すっ…



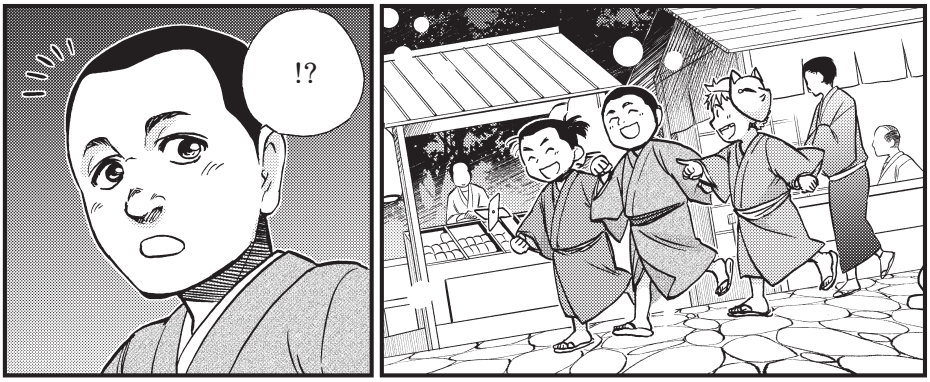
のちに児童福祉の父と呼ばれ生涯に三千人以上の児童を救った男

石井十次

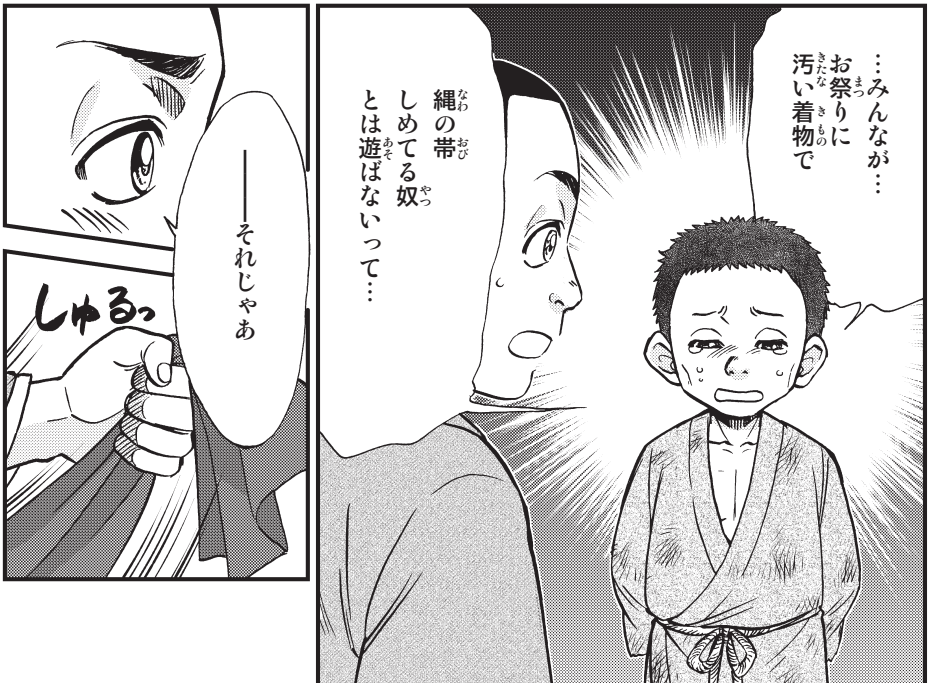
彼が児童救済という使命に突き進む

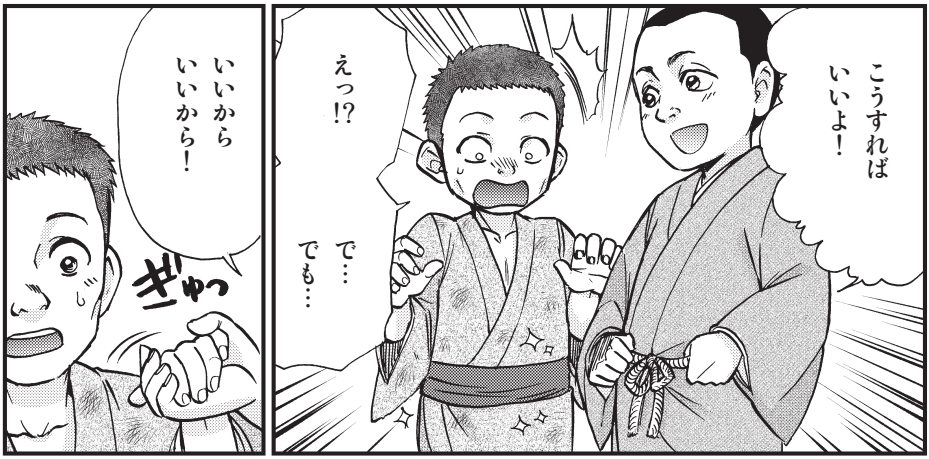
運命の第一歩だった

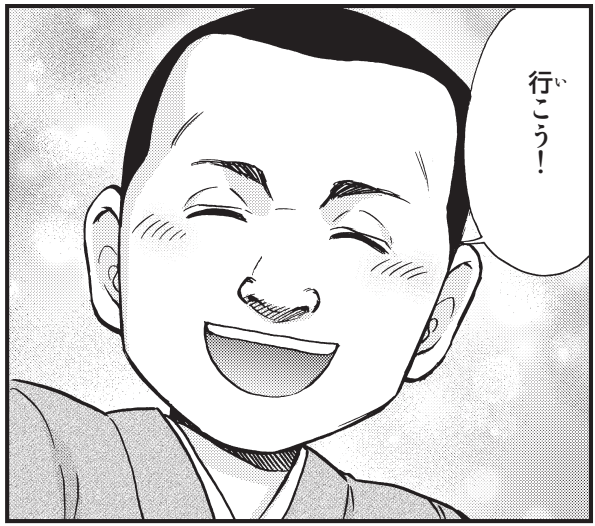
一八七二年
宮崎県児湯郡
上江村（現・高鍋町）
ザワ ザワ
これで
よしと！
似合ってるわよ
十次
母・乃婦子
お母さん
ありがとう！
十次（7歳）
行って
きまーす！
十次は
高鍋藩下級藩士の
石井家・待望の男子
として生まれ
父・万吉
両親にたくさんの
愛情を注がれて
すくすくと
成長していった
ピーヒャラ
ラー

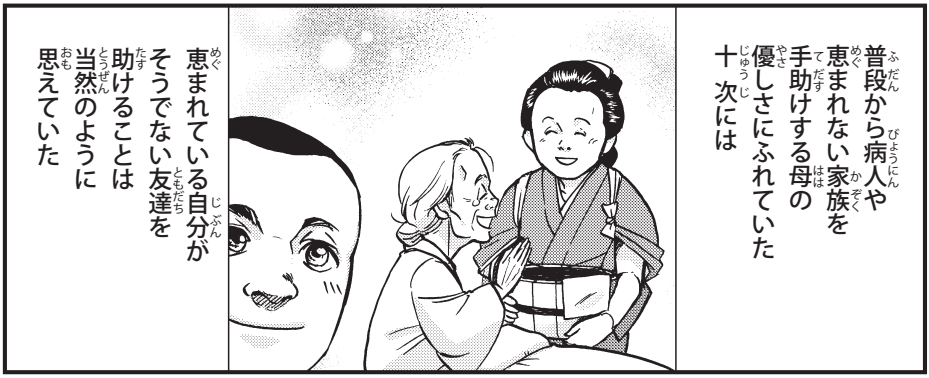

!?

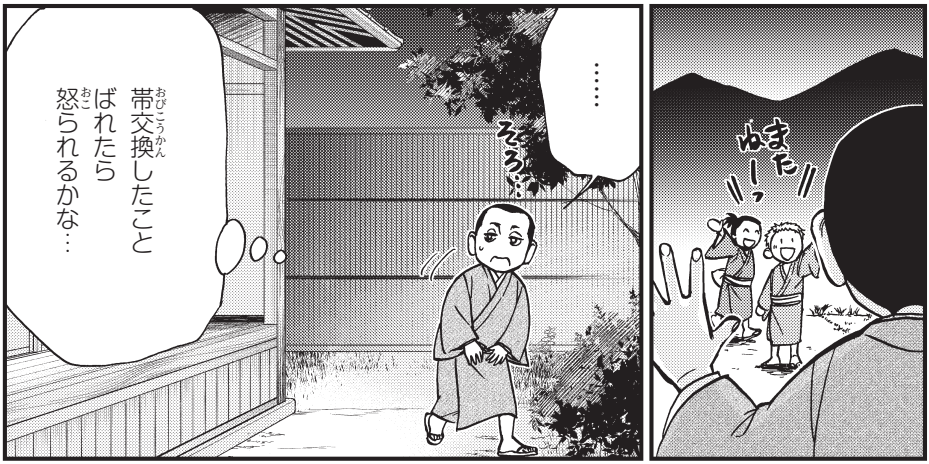
どうしたの？
みんなと遊ばないの？
十次くん…

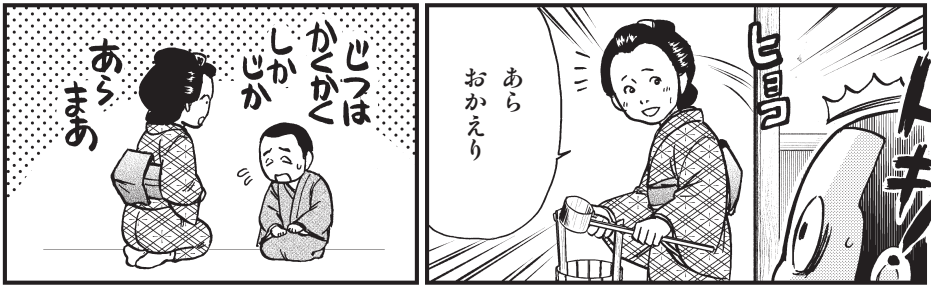

…みんなが…お祭りに汚い着物で
縄の帯しめてる奴とは遊ばないって…
——それじゃあ
しゅるっ


こうすれば
いいよ！
えっ!?
で…
でも…
いいから
いいから！
ぎゅっ

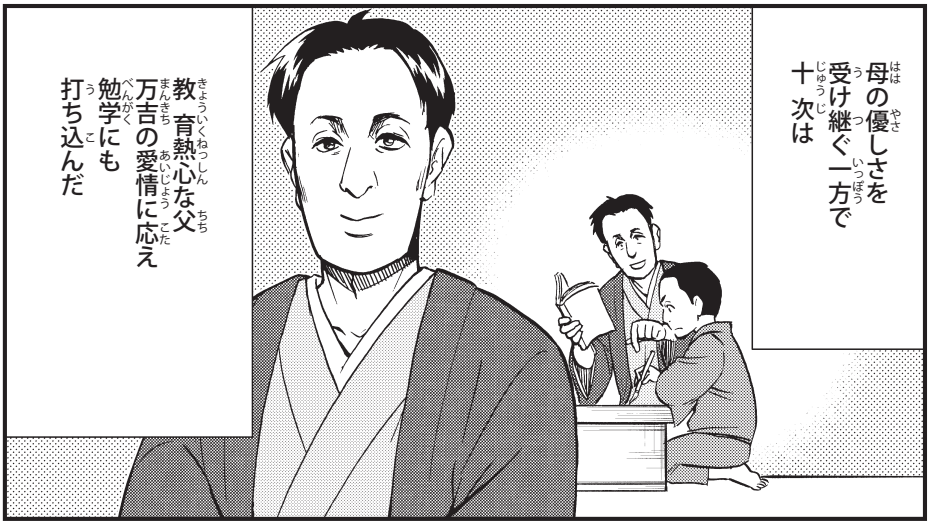

行こう！

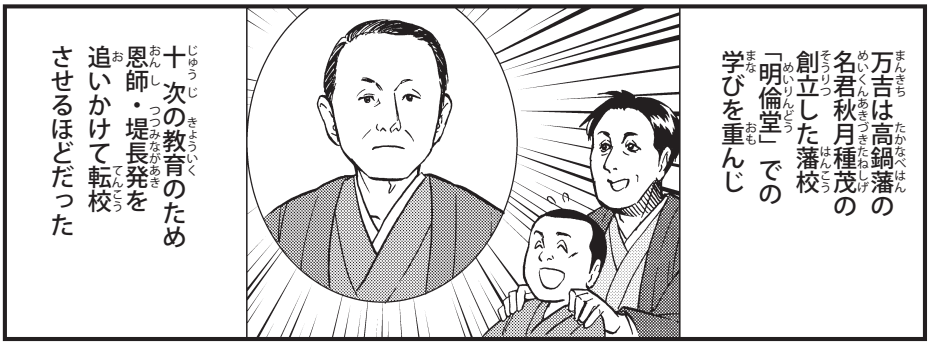

普段から病人や
恵まれない家族を
手助けする母の
優しさにふれていた
十一次には
恵まれている自分が
そうでない友達を
助けることは
当然のように
思えていた

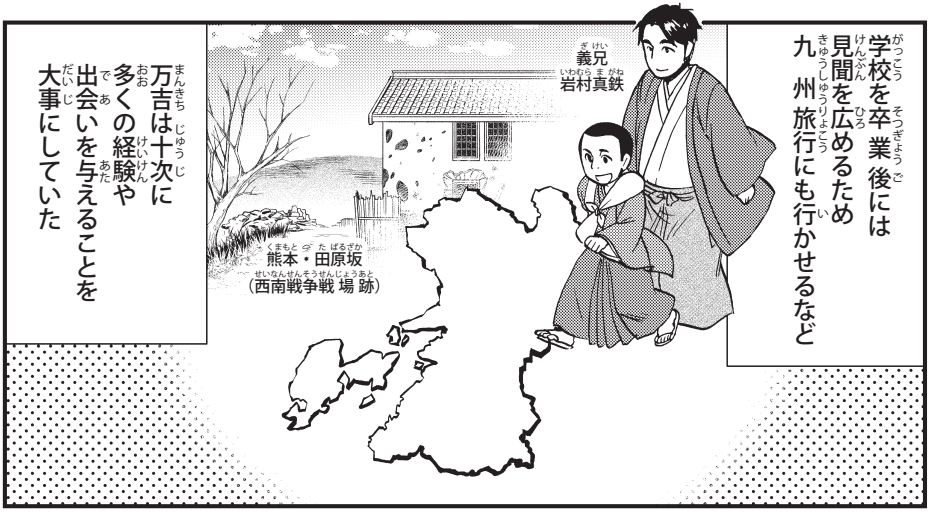

ぬまた
……
そろ…
帯交換したこと
ばれたら
怒られるかな…


ヒョコ
ドキッ
あら
おかえり
じつは
かくかく
しかじか
あらまあ

それはよいことを
したわね十次
帯ならまた
作ってあげ
ましょう
それよりも
あなたのその
やさしい心を
大事にね


母の優しさを受け継ぐ一方で十次は
教育熱心な父万吉の愛情に応え勉学にも打ち込んだ


万吉は高鍋藩の名君秋月種茂の創立した藩校「明倫堂」での学びを重んじ
十次の教育のため恩師・堤長発を追いかけて転校させるほどだった


学校を卒業後には見聞を広めるため九州旅行にも行かせるなど
義兄
岩村真鉄
熊本・田原坂
（西南戦争戦場跡）
万吉は十次に多くの経験や出会いを与えることを大事にしていた

そして十四歳になった十次は海軍士官を志し

東京の「攻玉社」に入学

――が…

…？

武士の子であるものの軍人になることに疑問を抱いたのか

病気を理由に帰郷

体調が回復してきたころ当時高鍋の製糸業の先駆者となっていた万吉に命じられ

安井息軒

十次は飫肥にある安井息軒肝入りの養蚕製糸場へ視察に行くことになる

ところが…

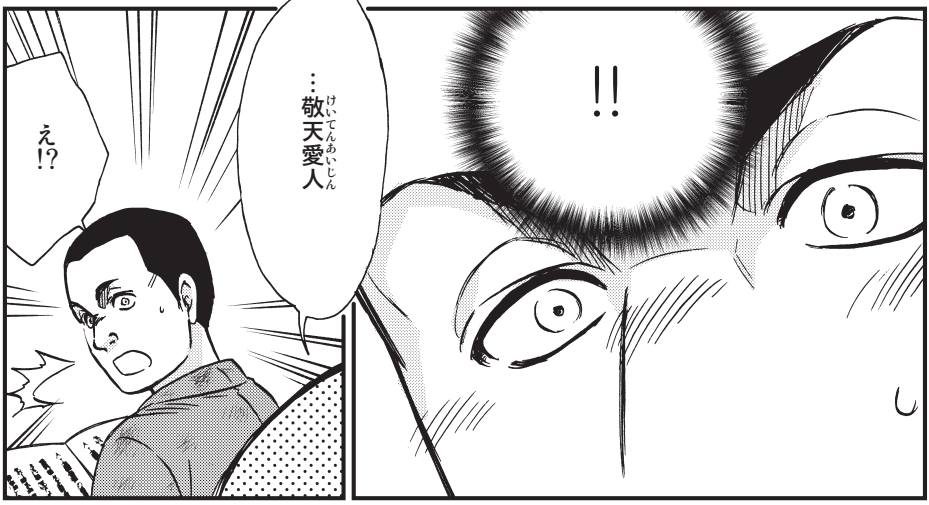
ガシャン!!

十次が逮捕された!?

飫肥に向かう途中
東京の学友たちと
偶然再会した
十次は
宿場で盛り
あがった勢いで
政府批判などを
述べていた
政府の領土政策に反対!
政党を作ろう
弱腰な大臣に一言いってやれっ
その時のメモが
たまたま警察の
目につき
国家への反乱の
疑いありとして
投獄されて
しまう
う〜ん…

父上と母上には無罪放免になるから安心してと伝えたものの
どうしたものか…
なにを やっとんだ!
おとうさん…
ん?
皇朝名家史論
『皇朝名家史論』孟子の言葉か…

天が人に重要な任務を授けようとするときはまずその人を疲れさせ失敗させる
それは天がその人を強くし重要な任務を実行できる人に育てあげようとしているからだ


!!
…敬天愛人
え!?

西郷隆盛先生の言葉さ

天を恐れ敬い人をいつくしみ愛す

君も天に与えられた使命を見つけられるといいね

ドキドキ

西郷先生の言葉…

もっと詳しく聞かせてくれませんか!?

その後無罪放免となった十次だったがこの留置所での出会いと経験は十次の人生に大きな影響を与えた

西郷先生は
国を豊かにするため
自ら鍬をふるっていた

居場所が
ないのなら
自らの手で
切り開こうじゃないか！

十次は貧しかった
友人らを救うために
小屋を建て共に
住みながら

西郷隆盛に倣って
荒れ地の開墾に
挑んだ

猪突猛進な
十次らしい行動力だが
その心の底には

「弱い者を
助ける心」が
常にあった

ところが…

開墾事業は水利の交渉がまとまらず中止

その後も教師・警察と職を転々とする中で

友人の妹を助けるために借金をしたり

そのために病気になったりと…

度重なる挫折に見舞われるが

その度に十次は強く大きくなっていった

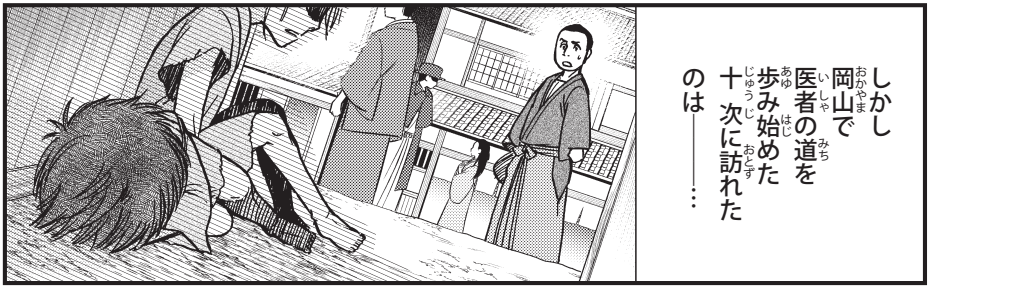
そして一八八一（明治十五）年十七歳となった十次に転機が訪れる

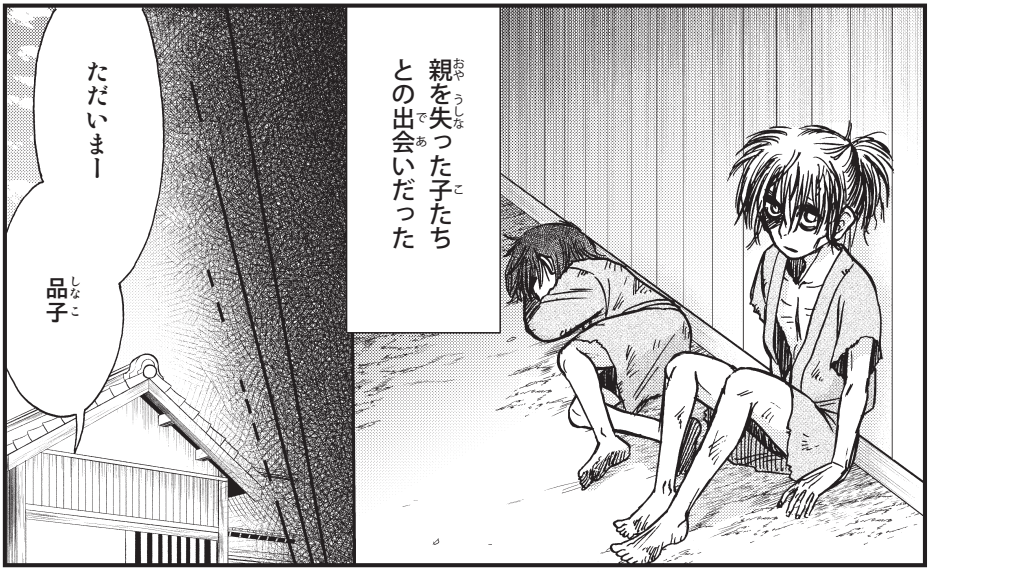
…君は大変優秀だし弱きを助ける心を持っている

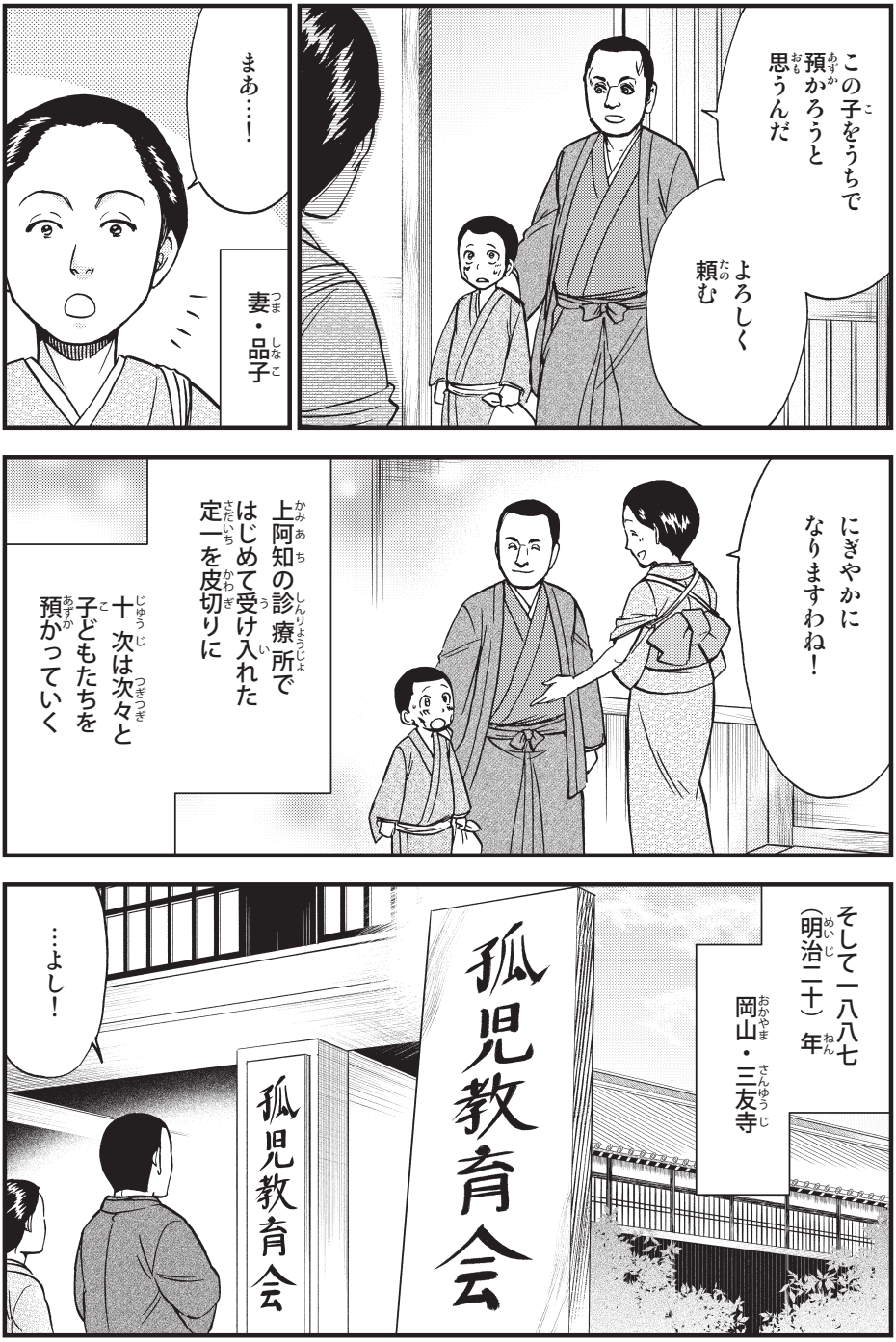
医学を学んで医者になるといい

荻原百々平

私が医者に…!?
十次は病気の治療で訪れた宮崎病院で荻原百々平と出会い
その支援を受け岡山の地で医学を学ぶこととなる


しかし岡山で医者の道を歩み始めた十次に訪れたのは――…


親を失った子たちとの出会いだった
ただいまー
品子


この子をうちで預かろうと思うんだ
よろしく頼む
まあ…！
妻・品子
にぎやかになりますわね！
上阿知の診療所ではじめて受け入れた定一を皮切りに十次は次々と子どもたちを預かっていく
そして一八八七（明治二十）年
岡山・三友寺
孤児教育会
孤児教育会
…よし！

自分には何の責任もないのに

保護してくれる人がいないために健全な成長ができないのは不幸なことだ

天の下で人は平等なれば同じく天の下に生きる我々には彼らを救う責任がある

彼らに教育をうけさせ幸せにせねばならない！

十次は医学の道を進みながら貧しい子たちの世話をするため

孤児教育

のちに日本最大の孤児院となる孤児教育会（のちの岡山孤児院）を設立

支援者を募って児童救済を進めていった

一方…

ズキ ズキ

児童救済もいいが医学校を卒業して医者になってからでもいいだろう…

期待や心配も
わかる…失望
させたくもない

しかし…
医学と児童
救 済の道…
果たして両立
できるものなの
だろうか

天は何故
私にこのような
苦悩を授ける
のだ…

西郷隆盛先生の
言葉さ

天を恐れ敬い
人をいつくしみ
愛す

君も天に
与えられた
使命を見つけら
れるといいね

ドキ
ドキ

…そうか…

ザッ
ザッ
…あなた？
？
どう
なさったの…

え!?
あ あなた
何を!?
ゴ
オ
オ
オ
オッ
大切な
医学書が…！

医者を
志す者は他にも
いる…しかし
親を失った子を
救おうとする
者は少ない
たとえこの先
どんな苦難が
待ちうけていようと
私は一生を貧しい子たちの
救済にささげたい！

こうして
一八八九（明治二十二）年
十次は医学部を退学

児童救済を
生涯の使命と
定めたのである

しかし――
児童救済の道は
なだらかな道
ではなかった

日に日に増える
子どもたちを
養うため

十次は寄付金
集めに奔走

それでもある日

孤児院の食料が
底をついてしまう

どうか…
どうか

私はいらないから
子供たちに

ぐ～～～

あなた…

子どもたちに
食べ物を
お与え
ください…！

しかしこのとき十次の孤児院のことを知ったアメリカの団体から

多額の寄付金が届けられたのだ

あ…ありがとうございます…！

こうして日本のみならず海外からも寄付を受けながら十次は子どもたちを教育し養っていった

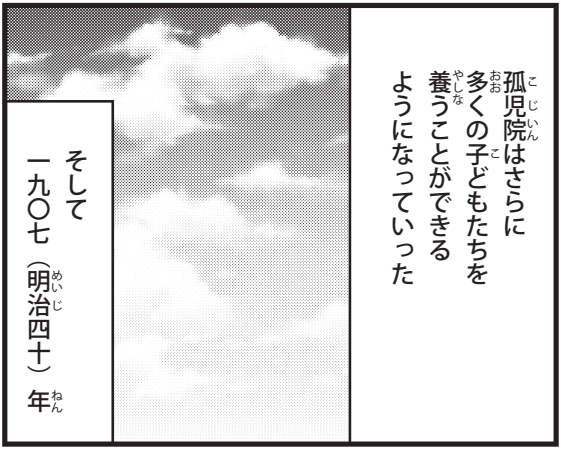
しかし

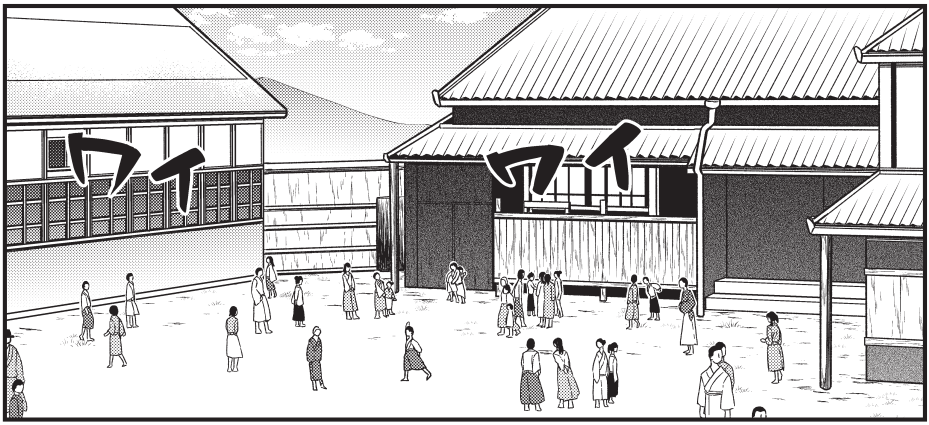
多くの方が寄付をくださるのはありがたいが
それにばかり頼っていては院の自活はできないし
いつまでも子どもたちが自立することもできない――
それならば！
トントン
パタン
ガコン
パシャ
パシャ
彼らの多くは貧しさから親を失った子たちです
社会で生きていくためには仕事を身につけ生きていける力が必要です

一方的に支援いただくだけでなく
我々も社会に役立つことをしなければなりませんから
きゃっ きゃっ
おもいよ〜っ

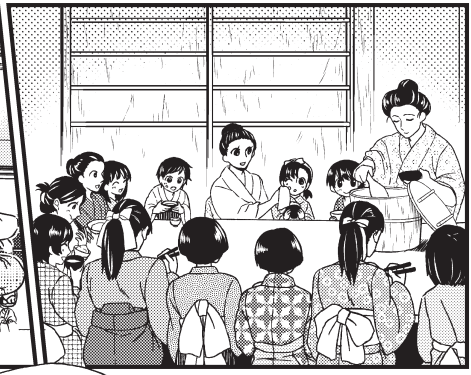
孤児院の「活版こぞう」「米つきこぞう」などの仕事ぶりは評判となり院を支えることとなった
のちには事業部に加え当時珍しかったブラスバンドや幻燈写真を携えた「音楽幻燈隊」の慈善音楽会による寄付金の募集など

「働きかつ学ぶ」の実践により


孤児院はさらに多くの子どもたちを養うことができるようになっていった
そして一九〇七（明治四十）年


ワイ
ワイ

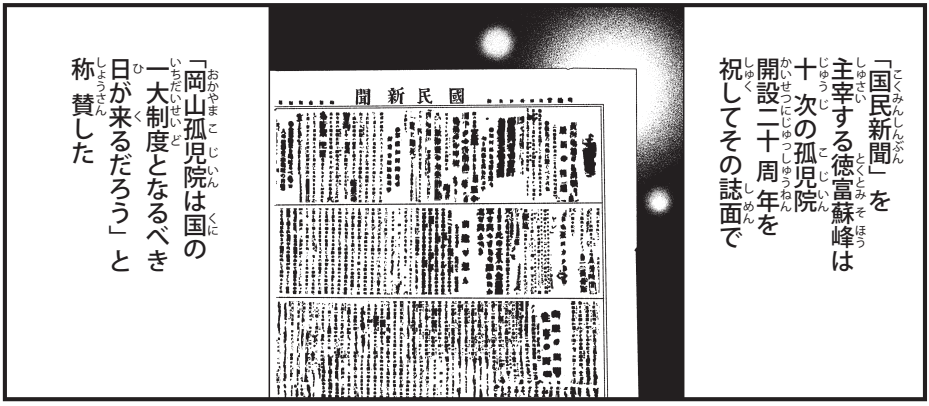
あはは
っ



なんとも見事なものですな
先の東北大凶作の被災児たちを受け入れましてね
現在一二〇〇人の家族がおります
それはすごい！どのように面倒をみられているので？
それは…
徳富蘇峰

・家族主義
小集団ごとに生活する。
15人に保育士1人つく。
・満腹主義
子供たちには好きなだけ
食事を与える
・委託制度
地域の方に
孤児を預かって
いただく
こういった
制度を設けて
います

やはり子どもたち
には
家族の愛情を
受けながら育って
ほしいものですから
委託制度は
現在の里親制度と
同等の画期的な
ものであった
ほう！

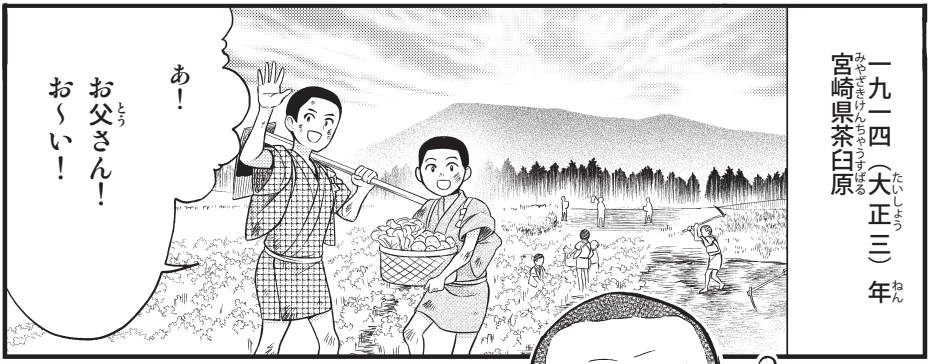

「国民新聞」を
主宰する徳富蘇峰は
十次の孤児院
開設二十周年を
祝してその誌面で
國民新聞
「岡山孤児院は国の
一大制度となるべき
日が来るだろう」と
称賛した

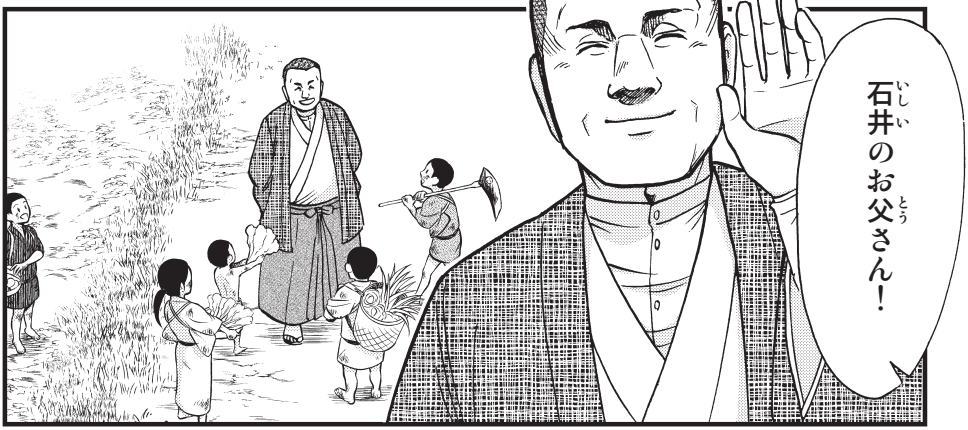
その後東北大凶作の被災児たちを復興した故郷へ見送るとともに

かねてより十次が自然と共生できる「理想の教育地」として移住計画を進めていた宮崎の地に

一九〇八（明治四二）年より本格的に移住を進めることとなる

一九一四（大正三）年
宮崎県茶臼原





やはり子どもたちは自然のなかで働き学び…
家族の愛を一身にうけて育つのがいい
故郷の日向にとっても
恩返しができて何よりだ
…鮎は瀬に住む
禽や樹にやどる
人はなさけの下に住む

天は父なり
…
人は同胞
なれば
互いに相
信じ
相愛すべき
こと…
みんな
そんな顔
するんじゃ
ないよ
僕が死んでも
みんなが…
ひとりひとり…
石井となって
働いてくれれば
僕は…
満足…
お父さん！

一九一四（大正三）年
患った腎臓病により

石井十次
四十八歳の若さで
永眠

児童福祉という
考え方すら
なかった時代に
三千人もの児童を
救った先駆者
石井十次

数々の苦難に
見舞われ挫折しても
めげなかった心は
家族の愛情と志
数々の出会いで
十次に育まれたものだろう

彼の残した
想いは今も
変わらず
受けつがれ

第25回 石井十次賞贈呈式

今日も子どもたちの
幸せな未来の
ためにその心を
燃やしている

児童福祉の父・石井十次をめぐって

石井十次を支えた妻・品子

たくさんの方々に支えられて児童救済事業を成し遂げてきた石井十次でしたが、その中でも妻・品子の支えは特に大きなものでした。品子は、石井十次の父・万吉の親友の子で、同じ高鍋藩出身でした。品子は、十次が逮捕されていた時、無罪放免を願って、金刀比羅神社に毎晩お参りしていたといいます。品子の一途な想いが通じたのか、無事に無罪放免となった十次は、その年に品子と結婚。十次16歳、品子15歳の秋でした。

以来、献身的に十次を支えた品子ですが、十次の教育方針にも大きな影響を与えています。救済した子どもの中には非行を繰り返す子もいましたが、そんな子たちを十次は当初、厳しく叱り、時には体罰を加えてしつけようとします。そんなとき、品子は間に入って子どもを守りました。十次は後に改心し、「非体罰主義」を掲げ、体罰によるしつけがまだ珍しくなかった時代に、体罰に頼らない教育を行っていくこととなります。

二人の間に長女・友子が生まれたことも、孤児院の教育方針に大きな影響を与えます。

それまで十次のことは「先生」、品子のことは「おばさん」と呼んでいた子どもたちですが、十次は「これからは親子の情愛をもって接するので、おじさん、またはお父さんと呼びたまえ」と伝えます。こうして子どもたちは、十次夫妻のことを「お父さん」「お母さん」と呼ぶようになったのです。十次夫妻は「実の父母のような愛情による家庭的な養育」を目指し、子どもたち一人ひとりを実の子と分け隔てなく、愛情をもって接しました。

十次の教育方針

十次は、マンガの中で語られている「家族主義」や「満腹主義」、「委託制度」をはじめとする「岡山孤児院十二則」という画期的な教育方針を掲げ、子どもたちを愛情いっぱいに育てていました。十次は子どもたちを育てるうえで、「家族の愛情をもって育てること」や、「食事制限をせずにお腹いっぱい食べさせること」などを心がけていましたが、一方で「愛と戒めによるしつけの上に立った労働と学問による教育」の大切さも意識していました。子どもたちが孤児院を出ても自立して生活していけるよう、手に職をつけさせることや、教育を受けさせることを重視したのです。十次の教育手法として特徴的なものに「密室主義」というものがあります。これは、十次の部屋に子どもたちをひとりずつ呼んで、向かい合って座り、その子の悩みや相談を聞いたり、十次の考えをじっくり話し

たりするものでした。十次は子どもたちをほめるときも、叱るときも、みんなの前では行わず、必ず部屋で向かい合って二人きりで行っていました。これは時間のかかる教育方法でしたが、十次と子どもの心が深く通い合い、とても効果があったといいます。

そして十次が教育の理想郷として茶臼原を選んだのも「人間の成長や発達には、自然・人間・事物が必要で、これらを調和させるのが教育の基本理念だ」と考え、自然の中での労働をもとにした教育を目指したためです。そして雄大な自然のなかで、「幼年時代（6歳～10歳）は遊ばせる。少年時代（10歳～16歳）は学ばせる。青年時代（16歳～20歳）は働かせる。」といった、年齢に応じた「時代教育方針」に基づく教育を行いました。

受け継がれる十次の心

十次の死後、盟友・大原孫三郎らによって継承されてきた孤児院でしたが、経営の行き詰まりや、社会的役目を果たしたとの理由により一度解散します。しかし、1945年の敗戦直後、十次の孫にあたる児嶋虎一郎が戦災孤児の救済をかかげて復興。石井記念友愛社を設立します。十次が最後に残した「僕が死んでも、みんながひとりひとり石井となって働いてくれればそれで満足だから」という言葉通り、十次の想いは茶臼原をはじめ、全国の児童福祉を担う人たちに受け継がれ、愛情あふれる救済と教育を担い続けています。

石井 十次　略年譜

年号	年齢	内　容
1865	0	宮崎県児湯郡上江村（現・高鍋町）に生まれる。
1871	6	藩校明倫堂に入学。
1878	13	高鍋島田学校（旧・明倫堂）を卒業。
1879	14	東京の海軍学校 攻玉社に入学（翌年 4 月に脚気を患い帰郷）。
1881	16	内埜品子と結婚。
1882	17	岡山県甲種医学校に入学。
1884	19	岡山基督 (キリスト) 教会牧師・金森通倫より洗礼を受ける。馬場原教育会を立ち上げる。
1887	22	邑久郡大宮村上阿知の診療所へ代診に赴く。最初の孤児を預かり、さらに増えて孤児 3 人と岡山へ帰る。 門田村の三友寺に孤児教育会 (後に岡山孤児院と改称) を設立。
1889	24	6 年間学んだ医学書を焼き、孤児教育に生涯を捧げる決意を固める。この年、大日本帝国憲法発布。
1890	25	長女友子生まれる。
1891	26	濃尾地震の震災孤児 93 人を受け入れる。
1892	27	名古屋に震災孤児院を設立。次女震子生まれる。
1893	28	震災孤児院を閉鎖し、全院児を本院へ移す。
1894	29	院内に「活版部」「理髪部」「機業部」など、実業教育を兼ねた事業部を設置。宮崎・茶臼原へ移住開始。
1895	30	三女基和子生まれる。コレラに罹患。品子永眠、吉田辰子と再婚。
1896	31	「岡山孤児院新報」第 1 号発刊。
1897	32	私立岡山孤児院尋常小学校開校。
1898	33	音楽幻灯隊が寄付金募集公演を開始。
1899	34	大原孫三郎と出会う。海外幻灯隊がハワイへ出発。
1902	35	大阪出張所設立。教育功労で藍綬褒章を受賞。
1903	38	米国有志より寄付金が届く。岡山孤児院が財団法人に認可される。
1904	39	音楽活動写真隊が台湾へ渡る。日露戦争勃発。
1906	41	東北凶作地孤貧児救済に着手、皇后陛下より凶作地収容児のために金 100 円を受ける。院児数 1200 人に。茶臼原移住隊 50 人出発。家族制度を全面導入、委託制度を本格導入する。
1907	42	東京事務所、大阪事務所を開設。救世軍の創始者ウイリアム・ブースが来院。
1908	43	腎臓炎を患う。8 歳以上の男児 63 人を岡山より茶臼原に移す。
1909	44	大阪日本橋に愛染橋保育所、日本橋同情館を開設。
1910	45	校舎 1 棟、塾舎 7 棟を岡山より茶臼原へ転築。
1911	46	三女基和子永眠。
1912	47	岡山に里子 91 人を残すのみとなり、茶臼原に移住完了。
1913	48	「茶臼原憲法」を制定。長女友子が児島虎次郎と結婚。
1914	48	長孫虓一郎誕生の電報に接し、1 月 30 日午後 2 時永眠。